

3

Annual Report 2016

各部

看護部

薬剤部

放射線技術部

臨床検査技術部

臨床工学部

リハビリテーション部

栄養管理部

感染制御部

医療安全管理部

臨床研究管理部

事務部

医療事務課

診療情報管理課

医局秘書課

資材課

総務室・財務室・人事管理室・広報室

地域医療連携センター

健康管理部

【看護部】

看護部は働きやすい職場環境作り、ワークライフバランス・キャリアアップを視野に入れた看護部体制作りに取り組んでいます。また、看護師一人ひとりの力が質の高い看護提供に繋がると考え、教育体制の充実やモチベーションアップのための仕組みを作っています。個々の看護師の専門性を活かした自律した活動展開は、地域の患者さんに質の高い看護を提供する役割を担っています。他にも専門の講師を招き看護研究、看護に関する学習会を定期的開催し、専門職者としての知識技術習得に努めています。

2016年度看護部実績を中心に、「新人教育プログラム」「ラダー別教育プログラム」「法人内認定看護師活動」「看護外来の件数」「重点事項」などの詳細を項目別に報告します。

主な施設基準

- ◎7対1入院基本料 ◎急性期看護補助体制加算(25:1)5割以上
- ◎看護職員夜間16:1配置加算 ◎認知症ケアII加算

職員配置および有資格者

■看護職員数および配置

2017年3月31現在

		3階西 病棟	3階東 病棟	3階南 病棟	4階西 病棟	4階東 病棟	4階南 病棟	5階西 病棟	ICU HD	手術室	外来	DM・RA センター	看護 管理室	合計
常勤	看護師	26	24	24	24	25	26	34	41	18	15	2	6	265
	准看護師	0	1	1	0	0	0	0	2	0	2	0	0	6
非常勤	看護師	2	3	1	3	3	2	8	5	1	15	11	2	56
	准看護師	2	0	0	2	1	2	2	1	1	5	0	1	17
合計		30	28	26	29	29	30	44	49	20	37	13	9	344
産休育休		1	0	1	2	2	3	4	2	2	0	2	0	19
病欠		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合計		31	28	27	31	32	33	48	51	22	37	15	9	364
常勤	ヘルパー	1	1	1	1	1	5	1	0	0	2	0	2	15
非常勤	ヘルパー	1	3	1	3	3	1	4	2	2	0	0	1	21
	アシスタント	1	1	1	1	1	1	4	1	0	22	10	1	44
合計		3	5	3	5	5	7	9	3	2	24	10	4	80

■常勤および新人看護師の離職率

過去5年間の離職率は以下に示す通りです。

	常勤看護師離職率(全国平均)	新人看護師離職率(全国平均)
2012年度	10%(10.9%)	4%(7.5%)
2013年度	7%(11.0%)	10%(7.5%)
2014年度	10%(10.8%)	0%(7.4%)
2015年度	5.2%(10.9%)	0%(7.8%)
2016年度	9.4%(調査未)	8%(調査未)

■認定看護師の紹介および役割

7月に「皮膚排泄ケア認定看護師」が1名誕生し、現在、7領域にて10名活動中です。5年ごとの更新を行い、最新の情報と看護を提供しています。



認定名	取得年	教育機関	更新
緩和ケア	2005年8月	日本看護協会 神戸研修センター	2015
感染管理	2007年7月		2012
緩和ケア	2009年7月	久留米大学医学部 認定看護師教育センター	2014
がん化学療法看護	2010年6月		2014
がん化学療法看護	2010年6月		2014
脳卒中リハビリテーション看護	2011年7月	熊本保健科学大学	2016
救急看護	2014年7月	九州国際看護大学	—
集中ケア看護	2014年7月	西南大学	—
集中ケア看護	2014年7月	神奈川県立保健福祉大学	—
皮膚排泄ケア	2016年7月	福岡県看護協会	—

①緩和ケア認定看護師 福田 富滋余 桃田 美智

緩和ケアは、病気と生きる患者さんが、つらくないように病気と付き合っていく方法を家族・患者さんとともに考え、心と身体、生活をサポートしていくケアです。がんを含むすべての疾患に対し、病気そのものや治療に伴うさまざまな苦痛を和らげ、QOL（生活の質）を維持・向上を目的に治療早期から最期の時まで主治医・担当看護師・緩和ケアチームとともに支援します。

②感染管理認定看護師 奥田 聖子

「白十字グループに関わる全ての人を感染から守る」を使命とし、感染防止に取り組んでいます。定期的に流行する風疹や麻疹ですが、当院は以前より抗体獲得に取り組み、感染を受けない、感染源にならないような体制を作っています。

③がん化学療法看護認定看護師 辻 かよ子 原田 里香

がん化学療法に特化した知識と技術をもとに、安全な投与管理、副作用症状のマネジメント、患者さんがセルフケアができるような支援を行うことが求められています。また、看護スタッフの指導・相談を行うとともに、自己の臨床実践能力を向上し、がん化学療法看護の発展に貢献していく役割があります。『がん化学療法を患者さん・ご家族が安心して安全に安楽に受けられるとともにがん化学療法に携わるすべてのスタッフが安全に安心して看護ができる』ことを目標に活動を行っています。

④脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 山口 淳也

現在、脳卒中は死因の第4位ですが日本人寝たきり疾患患者の第1位を占め、また人口の高齢化とともにさらに患者数の増加が予想されます。脳卒中リハビリテーション看護認定看護師は、発症直後・超急性期から脳卒中患者の病態予測を行い、重篤化を回避するためのモニタリングやケアを行い廃用症候群予防・家族を含めた退院支援・再発予防に努めていきます。

⑤救急看護認定看護師 谷口 拓司

救急看護の対象は、年齢・性別・疾患・重症度などを問わず突発的に発症した患者さんやご家族を含め、さまざまなライフステージの人々が救急看護の対象となります。そのような中で、危機的状況にある患者さんの救命処置やご家族の精神的ケアなどの幅広い看護実践が求められます。救急看護認定看護師の役割として、臨床現場において、実践・指導を行いながら院内の救命技術研修等の活動を行っています。また、地域への救急医療の貢献に向けた活動を行い、救急看護・医療の質向上に努めていきます。

⑥集中ケア認定看護師 牛島 めぐみ 中村 友美

集中的な治療と看護を要する患者さんとそのご家族を対象に、質の高いケアを提供できるよう全身管理を行っています。できるだけ早い社会復帰ができるように、また、患者さんの「その人らしさ」を大切にしていけるよう、的確な情報収集と判断を行い、回復を促進させられるケアを提供していきます。

⑦皮膚・排泄ケア認定看護師 鴨川 千香子

皮膚・排泄ケアは、WOCNとも呼ばれ、創傷Wound/ストーマOstomy/排泄Continence Nursingの分野において、予防・ケアを専門的な知識と技術を持って行う看護師です。皮膚のマニアとしてさまざまな患者さんの褥瘡・創傷予防や、ストーマ等障害を持ってしまった方が社会に復帰できるようサポートしています。患者さんの皮膚障害が改善し、皮膚のバリア機能が発揮できるよう職員に予防的スキンケアを発信していきます。院外の関連施設や地域の医療機関を横断的に活動していきます。

■学会認定看護師

専門学会認定看護師の資格取得を支援しています。資格取得後は、院内での看護実践、地域への講演活動などにおいて、看護の質向上に努めています。看護管理者は、日本看護協会の看護管理教育課程を毎年計画的に受講し、看護の質向上に向けて各部署の看護管理を行っています。

2017年3月31日現在

認定名	人数
消化器内視鏡技師	7名
日本糖尿病療養指導士	8名
リウマチケア看護師	8名
糖尿病重症化予防(フットケア)	2名
弾性ストッキングコンダクター	3名

認定名	人数
透析技術認定士	3名
呼吸療法認定士	3名
I V R 看護師	3名
骨粗鬆症マネージャー	4名

認定看護管理者教育課程修了:ファーストレベル25名、セカンドレベル8名、サードレベル1名

■法人内認定看護師

法人内にて、認定看護師や学会認定看護師・診療部などが講師となり、1年間の講座・実習などの教育を経て、法人内認定看護師が誕生し3年ごとに更新をしています。認定後は、臨床指導を始めとする、現任教育を行っています。2016年度からは「急性期看護」を開講(講義・シミュレーション・実習など)しました。

認定部門	認定	2016年度受講者	認定部門	認定	2016年度受講者
説明支援ナース	8名	0名	N S T	5名	1名
皮膚ケア	6名	0名	がん化学療法	2名	0名
緩和ケア	3名	0名	ケア技術指導者	3名	0名
感染管理	5名	1名	脳卒中リハ看護	5名	0名
急性期看護	—	2名	合計	37名	4名

■看護部の活動報告

■地域共同学習会および院外新人看護師研修・出前講座

認定看護師・法人内認定看護師・学会認定看護師が中心となり、地域医療機関や院外新人看護師を対象とした研修会を実施しています。出前講座では、「糖尿病」「感染管理」「看取りケア」「脳卒中リハビリテーション看護」「ケア技術として、移乗・移動」などを開催しています。



地域共同学習会

開催日	タイトル	担当	院内	院外	合計
2016年 9月17日	安静の害(寝たきり)について	脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 山口 淳也	7名	23名	30名
2016年10月 8日	この発赤、見逃さないで!! 褥瘡ケアについて学びませんか?	法人内認定皮膚ケアナース	0名	33名	33名
2016年11月26日	糖尿病に関する知識と新情報!! ~専門医が語る糖尿病のお話~	糖尿病専門医1名、糖尿病療養指導士	6名	35名	41名
2016年12月 1日	あなたも私もらくらく介護シリーズ 第7回 ~移乗、移動の介助およびオムツの種類、正しい当て方編~	法人内認定ケア技術認定指導者	0名	33名	33名
2017年 3月18日	エンゼルケア・エンゼルメイク 心豊かな最期のケアを一緒に考えませんか?	緩和ケア認定看護師 福田富滋余・桃田美智	0名	52名	52名

■看護外来実績

認定看護師・法人内認定看護師・学会認定看護師が中心となり、市民・患者・家族・地域医療機関のスタッフを対象に相談・指導などを行っています。2016年度の実績は右記のとおり合計1,749件でした。

看護外来名	合計
皮膚ケア	266
下肢静脈	210
がん支援	752
女性の為の尿失禁	0
禁煙	19
脳卒中リハビリ看護	118
糖尿 病	362
ハイパーサーミア	22
骨	2
合計	1,749

■新人看護師育成

25名の新人看護師は、人事本部からの研修を1日間、看護部の集合教育2日間を受け、各部署へ配置されます。4月は毎日午後より新人看護師は研修室で集合教育を受け、5月からは年間教育プログラムに沿った毎月の研修と、各部署での看護技術指導があります。2013年度末に購入した「高機能シミュレーター」を用いての研修では、呼吸音聴取や呼吸器装着のアラームに対する対応をチームで行うなどの学習を行いました。



■ラダー研修プログラム

「人材育成」「人材活用」「能力評価」を目的として、ラダー制を導入し、多くの研修を行っています。看護職務の内容と看護職に求められる能力を規定したキャリア開発の設計図であり、活用することで各自の役割認識を高め、患者さんに対して質の高い看護を提供できます。個人の申し出により、下記のクリニカルラダーを用いて、個人のキャリア開発を推進しています。2016年度は、各ラダーの業務改善企画から実践、評価、他部署訪問などの研修と認定看護師中心で企画される7つの「専門コース」を追加しました。

2016年度 ラダー別研修プログラム

	ラダーⅡ	ラダーⅢ	ラダーⅣ	ラダーⅤ	ラダーⅥ	ラダーⅦ	全体研修
4月	4/1: 27名 PNS	4/15: 61名 PNS		4/20: 43名 PNSにおける役割	4/19: 32名 サービス マネジメント		学研: 9名 地域包括ケアシステム と退院支援プロセス
5月	5/16: 18名 看護技術(ポンプ・ 挿管介助など)	5/23: 68名 リーダーシップ① 自己分析	5/6: 63名 問題解決手法		5/31: 22名 スタッフと会議を 元気にする①		
6月	6/6: 20名 看護記録		6/15: 49名 PNSにおける役割 6/1~6/30: 22名 他部署訪問 対象: 5月参加者		6/30: 35名 7: 1入院基本料について		学研: 2名 他院膳から始まる 多職種による在宅支援
7月	7/23: 78名 安全 TeamSTEPPS 前半			7/7: 32名 看護実践を語る会	7/25: 24名 スタッフと会議を 元気にする②	7/12: 10名 近況をお知らせしよ う	7/4: 学研 ストレス
8月	8/12: 19名 ケーススタディ相談		8/3: 64名 問題解決の為に取り組ん でいること 中間報告		8/30: 22名 アンガー マネジメント		学研: 22名 独居でも地域でも 暮らせる地域連携
9月		9/20: 43名 リーダーシップ②		9/3: 70名 安全 TeamSTEPPS 後半			9/21: 90名 看護を語る
10月	10/3: 78名 ケーススタディ発表		10/24: 45名 SWOT分析	10/19: 37名 SWOT分析			
11月		11/21: 52名 リーダーシップ③		11/16: 30名 労務管理			11/1 法人内認定看護師活動報告会 11/18: 22名 CVポート 11/30: 131名 看護部の方針
12月							12/9: 10名 独居、がん末期など 医療依存度の高い患者の 在宅療養支援
1月							
2月							
3月	3/6: 19名 実地指導者とは			3/14: 33名 看護管理者のコンピテンシーモデル			3/8: 6名 学研: 目標管理 3/13: 114名 認知症実践報告会

学会・研修会への参加実績

研究に関しては、定期的に外部講師からの指導を受けており、日本看護学会の各領域の学会を中心に、各部署より発表しています。

演 題	部 署
急性期看護(沖縄)3題	手術室・ICU・3階南病棟
在宅看護 (高知)1題	看護管理室
看護管理 (石川)3題	3階西病棟・5階西病棟・4階南病棟
慢性期看護(鳥取)3題	外来・3階東病棟・4階西病棟



また、専門学会にも14演題発表しておりますので、00ページを参照してください。

法人全体の看護部で行われる看護部Instituteでは、テーマを『災害看護管理について』とし、2016年度日本災害看護学会においてご発表された久留米大学病院副看護部長に「病院の防災に備えるための院内の連携・協働、危機管理について」の特別講演をお願いしました。また、消防局・当法人施設課の立場からと東北・熊本震災後の災害支援看護で活躍された看護師2名からの体験発表を行い、さらに各施設における災害管理について検討しました。

院内の看護研究学会では、特別講師の石垣恭子教授による「研究倫理」の教育講演、院内より11題の発表があり、活発な質疑応答がありました。

重点目標・評価と来年度への展開

1) 「退院支援ナースの育成」と「退院支援カンファレンスの充実」

2016年度は、退院支援についての学習として、「在宅支援ナースの育成」プログラムを1年かけて学習し修了試験も合格した看護師が8名(計58名)誕生しました。訪問看護・ケアプランセンター・介護系の実習を経て、在宅の現状も把握した看護師です。

退院支援チームの主任と他部門・多施設の職員が参加する「拡大カンファレンス」を継続し、患者さんやご家族にとって「幸せな退院」になるような活動を積極的に行いました。入院時より、担当看護師と医療ソーシャルワーカーによるスクリーニングを実施し、入院3日以内の退院カンファレンスの開催、4者(医療ソーシャルワーカーの専任・退院支援の専任も含む)カンファレンスを行い、さらに早期の介入を行っています。

さらに、多職種との退院前カンファレンスを実施し、在宅希望の患者さん・ご家族の意向に沿えるような最善の在宅支援を検討しています。必要時は、試験外出・外泊を勧めて、在宅に必要な物が揃っているかの確認を行うなど、看護師、医療ソーシャルワーカー、臨床工学技士、リハビリスタッフ、訪問看護師と共に退院前訪問を行いました。退院後も転院先や訪問看護師と連携を取り、十分な連携・サービスが整っていたかの評価を退院後訪問として開始しています。

2) 説明の充実「i-padによる説明」

説明の充実(教材の作成や説明の仕方)として、説明は模型やパンフレットなどを用い行ってきました。2013年からは、糖尿病・リウマチ膠原病センターにおいてi-padによる説明を開始し、現在では各診療科や病棟での説明にも徐々に拡大しています。2016年度は特に、新規診療科での教材作成や既存の教材の改定を中心に取り組み、動画などを用いて、より具体的に検査や治療を理解していただけるように努めました。

3) 多職種による活動「呼吸サポートチーム」「NSTチーム」「皮膚ケアチーム」

診療部・看護師・薬剤師・管理栄養士・臨床工学技士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士などでチームを組み、専門職としての意見を話すなど、カンファレンスや回診を充実させています。呼吸器

離脱へのサポートや、栄養評価と共に食事形態や輸液のメニューを検討、ポジショニングや皮膚ケアの指導などを行っています。

4)「急性期看護の充実」

2016年度はBLSプロバイダー・ACLSプロバイダー・INARSプロバイダー研修などを院内で行い、地域医療機関に勤める医療従事者の資格取得を支援しました。また、質を標準化し高めるために、救急外来受診時のJTASを用いたトリアージを実践しています。さらに、救急症例検討会では救急隊とのディスカッションで、前向きな意見交換を行い、各々のすべきことを検討しています。

救急症例検討会

開催日時	タイトル	担当者	院内	院外	合計
2016年6月13日	くも膜下出血症例	・脳神経外科兼救急部副部長 保田宗紀 ・脳神経外科 堀尾 欣伸 ・外来救急外来看護課 大石 智美	32	25	57
2016年6月19日	見逃してはならない 軽症症例血管内治療適応	・脳神経外科兼救急部副部長 保田宗紀 ・脳神経外科 堀尾欣伸 ・外来救急外来看護課 中里安耶美	17	15	32
2016年8月23日	t-PA症例について	・脳神経外科兼救急部副部長 保田宗紀 ・脳神経外科 高木友博 ・外来救急外来看護課 谷口拓司	22	24	46
2016年8月29日	VF症例について PCPS挿入基準・適応について	・循環器内科 医長 落合朋子 ・外来救急外来看護課 主任 大田たまき	29	28	57
2016年10月3日	出血性ショック 消化管出血症例	・消化器内科 岩津伸一 ・外来救急外来看護課 谷口拓司	22	24	46
2016年11月22日	一過性脳虚血発作 見逃してはならない徴候	・脳神経外科兼救急部副部長 保田宗紀 ・脳血管内科 高木勇人 ・外来救急外来看護課 谷口拓司	9	10	19
2016年12月27日	脳卒中救急症例検討会 救急頭部外傷症例 急性硬膜下血腫	・脳神経外科兼救急部副部長 保田宗紀 ・脳神経外科 河野大 ・外来救急外来看護課 谷口拓司	11	14	25
2017年3月22日	脳卒中救急症例検討会 血管内治療について	・脳神経外科兼救急部副部長 保田宗紀 ・脳神経外科 堀尾欣伸 ・外来救急外来看護課 谷口拓司	14	8	22

【薬剤部】

薬剤部は調剤室、注射室、製剤室、医薬品情報室、医薬品倉庫で構成され、救急および急性期の医療に24時間対応し、医薬品の適正使用ならびに適正管理に努めています。患者さんにとって最適な薬物療法が実施されるよう薬剤管理指導業務、調剤業務等を通して、チーム医療の一員として業務に取り組んでいます。

主な施設基準

薬剤管理指導料
 外来化学療法加算1
 無菌製剤処理料1

職員配置

	常勤数	非常勤数
総数	13人	3人
薬剤師	13人	0人
薬剤助手	—	3人

取得認定資格

日本医療薬学会指導薬剤師 …………… 1名
 日本医療薬学会認定薬剤師 …………… 2名
 日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師 …… 1名
 日本糖尿病療養指導士(CDE) …………… 2名
 日本リウマチ財団リウマチ登録薬剤師 …… 2名
 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 … 3名
 日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師 …………… 1名
 日本病院薬剤師会認定指導薬剤師 …………… 1名
 NST専門療法士 …………… 1名

活動状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
薬剤管理指導料(件)		288	329	366	309	365	352	365	356	334	320	352	408	345
退院時薬剤情報管理指導料(件)		60	54	70	66	67	71	50	78	70	51	67	98	67
入院時持参薬鑑別件数		400	402	417	439	422	439	400	405	358	438	407	408	411
抗癌剤 無菌調整 算定件数	外来(件)	95	87	94	104	108	94	94	103	96	100	107	116	100
	入院(件)	33	11	33	27	33	23	31	28	31	45	31	45	31
外来(院外)処方枚数		5,637	5,594	5,530	5,507	5,694	5,655	5,416	5,505	5,681	5,494	5,297	5,860	5,573
外来(院内)処方枚数		307	274	270	301	308	261	282	259	281	351	379	314	299
入院処方枚数		4,393	4,326	4,454	4,857	4,618	4,701	4,955	4,672	4,678	4,622	4,555	5,082	4,659

学会・研修会等発表実績

■ 研究会、講演会発表

学 会 名	演 題	発 表 者
第26回日本医療薬学会年会	膠原病患者を対象とした低用量シクロスポリンの 母集団薬物動態解析	曾根本恵美
第26回日本医療薬学会年会	MRSA肺炎患者における バンコマイシン初期投与設計の有用性	岩村直矢
第63回日本化学療法学会西日本支部会	バンコマイシンの治療効果と area under the trough level (AUTL) との関連性	岩村直矢
第54回日本糖尿病学会九州地方会	地域連携パス患者の薬物療法の動向調査	紙谷友里子
第21回県北乳癌研究会	薬薬連携の取り組みについて ～乳がんの患者さんを地域でサポートするために～	山口祐平
第3回県央ナースミーティング	地域医療連携における薬剤師の役割	曾根本恵美

重点目標・評価と来年度への展開

2016年度には4名の薬剤師が入職しました。若い薬剤師が増えているため、薬剤部全員で幅広い知識の習得に力を入れており、その結果、薬剤管理指導、退院時服薬指導の実績の増加に繋がっています。また、専門・認定資格取得者も増え、専門分野にもより深い追究を目指します。2017年度には、さらにより多くの入院患者さんの薬物療法に積極的に介入し、チーム医療の一員として適切な薬物療法に貢献できるよう努めます。

【放射線技術部】

放射線技術部は、放射線関連検査および治療に携わっている診療放射線技師を中心とした部門です。診断価値の高い画像情報を提供できるよう、各種専門・認定資格を有する診療放射線技師が多数在籍しており、また、患者さんが安心して検査や治療を受けることができるように医療被ばくの低減にも努めています。

主な施設基準

CT撮影及びMRI撮影
冠動脈CT撮影加算
心臓MRI撮影加算
高エネルギー放射線治療

施設認定

医療被ばく低減施設認定

職員配置

	常勤専従	常勤専任・兼任		非常勤数
		人数	常勤換算	
総数	16人	1人	0.5人	0.45人
診療放射線技師	15人	1人	0.5人	0.45人
事務(受付)	1人	—	—	—

取得認定資格

放射線取扱主任1種……………3名
放射線管理士……………3名
放射線機器管理士……………6名
医用画像情報精度管理士……………2名
検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師……………1名
MR専門技術者……………1名
胃がん検診専門技師……………3名
胃がん検診読影専門技師……………2名
救急撮影認定技師……………2名

活動状況

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
一般診療	48,202	51,547	58,753	60,845	61,872
検診	12,798	12,649	12,892	13,306	13,565
総計	61,000	64,196	71,645	74,151	75,437

重点目標・評価と来年度への展開

欠員スタッフの補充は行いましたが、3名とも新人であったため即戦力とはならず、マンパワー不足の大変苦しい1年間でした。しかし、全員一丸となって目標達成に取り組んだ結果、16項目中1項目のみ目標未達成という結果でした。未達成分は、担当者が育児休暇に入ったため活動が充分行えなかった広報紙発行回数ですが、目標値の半分:1回分はなんとか配布できました。

目標達成できた代表的なものを区分毎にあげますと、「顧客満足度の視点」において、患者満足度評価の結果9.7点以上・職員間満足度評価の結果7.7点以上がそれぞれ10および9項目と、目標値を大きく上回りました。今後も、これまで同様な質の高い接遇を目指し、気を緩めることなく改善活動を続けてまいります。「財務の視点」においては、当部スタッフはもちろん、関連する医師や連携施設の協力のおかげで、放射線治療新規計画数180件と目標を大きく上回りましたが、年度末に失速したことは、今後の課題です。「病院機能の視点」では、有給休暇取得率アップが163日と、これも目標を十分に達成することができました。夏期に、夏休み

取得キャンペーンを行ったことが良い結果を生んだと思われます。「学習と成長の視点」では、エキスパート認定者が7名と、予想以上に順調でした。今後も、より高い知識・技術を提供できるよう、資格取得および研究発表に力を入れていきます。

学会発表実績

日付	学会名	演題	発表者
2016年8月	診療放射線技師会 県北地区研修会	当院の読影補助の取り組み	中恵 龍一
2016年10月	九州IVR研究会	九十九胃透視研究会における 胃X線検診への取り組み	高見 晋弘
2017年2月	診療放射線技師会 県北地区研修会	医療被ばく低減施設認定を取得して	溝口 達士
2017年3月	佐世保ベイスайд ミーティング	123IMIBGカットオフ値の検討	中恵 龍一
2017年3月	CTMR研究会	当院における安全活動について ～CT・MRIを中心に～	天野 雄生

【臨床検査技術部】

「中央分析室」「病理細胞診室」「微生物室」「生理超音波室」の4部署から構成されており、一日も早い患者さんの社会復帰を実現するために、職員一丸となって最新の検査技術・知識を駆使し業務に当たっています。当部門は臨床検査の国際規格であるISO 15189「臨床検査室—品質と能力に関する要求事項」を、長崎県で第1番目(全国65番目)に取得した認定検査室です。当院、臨床検査技術部で測定・報告された検査データは、国際的にも通用するものです。



ISO 15189 認定シンボル

主な施設基準

ISO 15189認定施設
 精度保証施設認証 取得施設(JCCLS、日臨技)
 長臨技データ標準化委員会基幹病院

職員配置

	常勤	非常勤(常勤換算)	合計(常勤換算)
医師	1人	—	1人
臨床検査技師	25人	4人 (3.5人)	29人 (28.5人)
助手	—	2人 (1.5人)	2人 (1.5人)

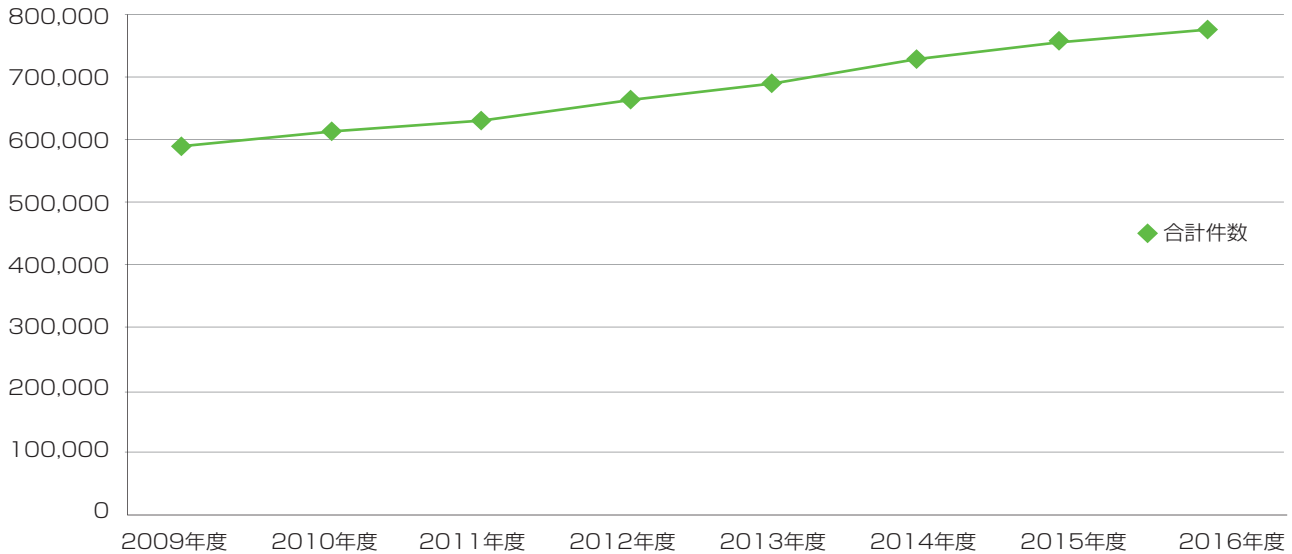
取得認定資格

細胞検査士……………5名
 超音波検査士……………4名(実人数)
 (消化器4名、循環器2名、体表臓器1名、健診1名)
 血管診療技師……………1名
 認定輸血検査技士……………2名
 認定心電検査技師……………1名
 認定病理検査技師……………1名
 認定救急検査技師……………3名
 認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師
 ………………1名
 糖尿病療養指導士……………2名
 二級臨床検査士……………5名
 (病理学2名、微生物学2名、免疫血清学1名)

活動状況

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
生化学・免疫	246,041	256,658	264,069	279,393	297,765	305,429	315,310	336,581
血液・一般・輸血	236,888	242,807	247,954	259,684	277,257	294,071	300,869	308,476
生理・超音波	36,953	34,911	33,639	35,901	37,618	40,815	41,965	43,468
微生物	10,652	11,603	12,259	11,988	13,994	14,626	13,399	12,555
病理・細胞診	7,128	6,886	6,534	6,871	6,662	7,025	7,614	7,545
外来採血	39,358	41,610	43,671	44,923	45,642	45,461	45,670	45,719
外注	14,376	16,220	15,050	15,337	16,835	16,477	17,454	17,199
合計件数	591,396	610,695	623,176	654,097	695,773	723,904	742,281	771,543
病理解剖	14	10	10	21	10	14	12	11

◆合計件数



重点目標・評価と来年度への展開

2017年度は新たな人材を3名採用しマンパワーの充実を図ります。新たな人材を含めたスタッフの教育・訓練を強化し、拡大する臨床検査へのニーズに柔軟に対応できる体制の整備を推進します。またISO 15189認定においては、2017年3月に生理学的検査の2領域について追加認定が認められ、すべての領域での認定を取得しました。さらに研鑽を重ね、臨床に有用かつ精度の高い臨床検査情報の提供に努めていきます。

学会発表・講演実績

学 会 名	演 題	
第105回日本病理学会総会	当院病理部におけるISO15189の運用について(取得～更新審査～現在)	片 淵 直
第57回日本臨床細胞学会総会春季大会	骨、軟骨および横紋筋への分化を示したいわゆる乳腺癌肉腫の1例	片 淵 直
第34回長崎県臨床細胞学会学術集会	当院における婦人科細胞診(LBC)	片 淵 直
第65回日本医学検査学会	実践事例から学ぶチーム医療	安東摩利子
日臨技九州支部「第9回生物化学部門研修会」	検査説明への取組み	安東摩利子
平成28年度日臨技九州支部医学検査学会	生理学的検査におけるISO15189認定取得までの経過および効果	丸 田 千春
平成28年度日臨技九州支部医学検査学会	当院採血コーナーにおける待ち時間の現状と課題	久住呂由香
平成28年度日臨技九州支部医学検査学会	検体採取における病棟への介入	坂口麻亜子
国立大学法人臨床検査技師九州ブロック研修会	精度保証について(ISO15189第5章を中心に)	安東摩利子
第55回日本臨床細胞学会 秋季学会	食道EUS-FNAによる細胞診が診断に有用であった神経内分泌細胞癌の一例	片 淵 直
日本臨床化学会第56回年次集会	国際規格に基づく臨床検査室とは-ISO15189認定検査室の展望-	丸 田 秀夫
第11回白十字会臨床検査研究会	当院におけるパニック値報告の現状	清 水 菜央
第11回白十字会臨床検査研究会	病理検体確認作業におけるウェアラブルカメラ使用の試み	森本奈都美
第11回白十字会臨床検査研究会	熊本地震エコノミークラス症候群フォローアップ-斉検診	松尾はる花
平成28年度長崎県医学検査学会	検査データの読める技師を目指して	小 川 章子
平成28年度長崎県医学検査学会	当院の小児科におけるヘッドアップフィルタ試験の実際	山 田 美紅
第28回日本臨床微生物学会総会・学術集会	微生物検査担当技師による検体採取への取組み	伊 藤 将大
第29回日本臨床微生物学会総会・学術集会	原発性クリプトコッカス症が疑われた1症例	林 真美
福岡県総合管理分野研修会	当院におけるチーム医療への取組みから検査説明・検体採取について	安東摩利子
平成28年度北地区冬季総合研修会	病理検査室について	片 淵 直

【臨床工学部】

臨床工学技士は医師の指示のもと、循環・呼吸・代謝機能を代替、補助する生命維持管理装置の操作、保守点検を担当する技術者のことで、ME(Medical Engineer)や、CE(Clinical Engineer)と呼称されています。

近年の高度先進医療の目覚ましい発展と共に医療機器も複雑化、多様化しており、我々、臨床工学技士が医療機器の購入から運用、廃棄まで一貫して管理を行い、患者さんはもちろん、現場スタッフにも安心して使用して頂ける医療機器の提供と共に臨床技術の提供、現場スタッフへの教育などを行っています。

現在男性8名、女性3名の計11名の臨床工学技士が在籍しており、血液浄化業務、手術室業務、医療機器管理業務、不整脈治療業務、温熱療法業務、睡眠時無呼吸外来業務、待機、当直業務、医療ガス設備管理業務などを365日24時間体制で行っています。

主な施設基準

医療機器安全管理料1
 透析液水質確保加算2
 MRI対応植込み型デバイス装着患者のMRI検査
 冠動脈、大動脈バイパス移植術及び体外循環を要する手術
 経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈血栓切除術及び経皮的冠動脈ステント留置術
 下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法

職員配置

認定資格	体外循環技術認定士	1名
	呼吸療法認定士	1名
	特定化学物質等作業主任	2名
	第一種消化器内視鏡技師	1名

メンテナンス認定	人工呼吸器 Servo i/S プリベンティブメンテナンス講習会	6名
	人工呼吸器ピューリタンベネット 700シリーズミドルコース	3名
	人工呼吸器ピューリタンベネット 700シリーズアドバンスコース	5名
	低圧持続吸引器MS-008 メンテナンス講習会	2名
	輸液ポンプTE-131 メンテナンス講習会	6名
	輸液ポンプTE-161S メンテナンス講習会	7名
	シリンジポンプTE-331S/322S メンテナンス講習会	4名
	シリンジポンプSP-115 メンテナンス講習会	1名
	シリンジポンプTE-351/352 メンテナンス講習会	2名
	空気圧式マッサージ器SCD テクニカルトレーニング	11名

スタッフ構成	臨床工学技士	11名
--------	--------	-----

活動状況

ME機器	使用件数
シリンジポンプ	5,261
輸液ポンプ	4,708
医薬品注入コントローラ(ドリップアイ)	754
経腸栄養剤投与輸液ポンプ(アプリアックススマート)	43
携帯型輸液ポンプ(PCAポンプ)	1
S P O 2 モニター	94
モニター	93
人工呼吸器	108
非侵襲型呼吸器	151
二相式気陽圧ユニット(オートセットCS)	5
エアロネブ	36
低圧持続吸引機(メラサキューム)	325
超音波装置	515
逐次型空気圧式マッサージ器(フットポンプ)	647
合計	12,741

ME機器修理件数	
部署	698
業者	129
合計	827

透析機器	使用件数
透析供給装置	312
A剤自動溶解装置	312
B剤自動溶解装置	312
RO装置	312
患者監視装置	12,624
合計	13,872

アフエーシス関連			
C H D F	症例数	24	
	治療件数	124	
エンドトキシン吸着療法	症例数	5	
	治療件数	8	
単純血漿交換	症例数	2	
	治療件数	10	
LDL吸着療法	症例数	0	
	治療件数	0	
L - C A P	症例数	2	
	治療件数	8	
G - C A P	症例数	4	
	治療件数	27	
腹水濃縮	症例数	5	
	治療件数	6	
合計	症例数	42	
	治療件数	183	

温熱治療	合計
導入数	13
治療件数	221

補助循環装置	使用件数
P C P S	14
I A B P	43
合計	57

自己血回収装置	使用件数
	49

レザー焼灼術	使用件数
	176

E C C	合計
C A B G	20
A V R	8
A V R + M P	1
C A B G + A V R	7
大血管	3
M I C S	5
H I C S + T A P	1
M P + T A P	1
M V R	1
合計	47

O P C A B	合計
	3

神経刺激装置			
S	E	P	1
M	E	P	4
V	E	P	1
合計			6

カテーテルアブレーション	合計
	16

重点目標・評価と来年度への展開

■当直業務における均一した業務提供

ステップ表に基づいて、一定のスキルまでスタッフ教育を行っていますが、3年が経過したため、各ステップアップ表・マニュアルの見直しを行います。

■透析システム変更

平成29年5月22日よりリニューアルする透析機器に対し、他職種協働でスムーズな移行を目指し、前システムとの比較を行います。

■白十字病院における心臓血管外科サポート

平成29年度4月より開設される白十字病院心臓血管外科におけるサポートを行います。

■病院機能評価3rdG Ver. 1.1受診

平成29年10月審査において、部門項目すべてA評価を目指します。

学会への参加

学会名	演題
第26回全国臨床工学会	ハイパーサーミアにおける臨床工学技士の現状と課題
第9回長崎臨床工学技士会	<ul style="list-style-type: none"> ●当院のハイパーサーミアについて ●透析用患者監視装置内部に錆が発生した事例 ●当院のバスキュラーアクセス管理の現状
第24回長崎救急医学会	当直業務を開始して
第49回九州人工透析研究会	シャント管理ワーキンググループの活動報告 ～第四報～

【リハビリテーション部】

長崎県下の急性期病院の中でも最多のスタッフ数を誇り、安全で効果的なリハビリテーションを365日体制で提供しています。対象患者も術後早期から緩和医療の患者まで幅広く、「いつでも、どこでも、誰にでも」をモットーに必要な患者に十分な量のリハビリテーションを実施しています。

主な施設基準

脳血管疾患等リハビリテーション料I
 廃用症候群リハビリテーション料I
 運動器リハビリテーション料I
 呼吸器リハビリテーション料 I
 心大血管疾患リハビリテーション料 I
 がん患者リハビリテーション料

取得認定資格

認定理学療法士(循環).....1名
 認定理学療法士(呼吸).....3名
 認定理学療法士(脳卒中).....2名
 認定理学療法士(運動器).....2名
 認定理学療法士(代謝).....1名
 認定言語聴覚士(摂食嚥下).....1名
 AKA博田法 認定指導助手.....1名
 AKA博田法 認定療法士.....1名
 心臓リハビリテーション指導士.....2名
 3学会合同呼吸療法認定士.....8名
 日本糖尿病療養指導士.....1名
 介護支援専門員.....5名
 福祉住環境コーディネーター2級.....44名
 福祉用具プランナー.....10名
 認知運動療法 ベーシックコース修了.....6名
 認知運動療法 アドバンス修了.....1名
 ボバース イントロダクトリーモジュール.....7名
 ボバース ヒューマンムーブメント.....2名
 ボバース 3週間基礎講習.....4名
 ボバース 上級講習.....1名
 ボバース インフォメーション.....1名
 キネシオテーピングKTAM.....8名
 摂食・嚥下コーディネーター.....5名
 メンタルヘルスⅡ種.....7名
 メンタルヘルスⅢ種.....1名
 認知症ケア指導管理士(初級).....1名
 コア・コンディショニング アドバンス.....1名
 ヒメトレインストラクター.....1名
 リンパ浮腫セラピスト.....1名
 ピンクリボン アドバイザー(初級).....1名
 認知症ライフパートナー.....1名
 SSTベーシック.....1名
 パワーリハ上級指導者.....1名
 MTDLP 修了者.....2名

職員配置

	常勤
理学療法士(P T)	25人
作業療法士(O T)	17.85人
言語聴覚士(S T)	8.8人

活動状況

部門別実施件数

単位：件

		2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
入院	P T	30,556	32,749	35,770	40,399	40,656
	O T	25,281	24,792	28,886	30,642	27,005
	S T	8,484	10,696	12,222	13,842	11,051
	合計	64,321	68,237	76,878	84,883	78,712
外来	P T	1,077	950	1,587	2,658	3,188
	O T	533	352	568	806	714
	S T	328	222	220	258	183
	合計	1,938	1,524	2,375	3,722	4,085

疾患別内訳 FIMによる効果判定

単位：件

		件数	全 体	
			Gain	Efficiency
全 体		2,542	24.99	1.28
外 科		301	38.21	2.10
脳 神 経 外 科		405	30.25	1.40
整 形 外 科		352	27.86	1.25
心 臓 血 管 外 科		144	33.50	1.65
循 環 器 内 科		302	29.37	1.68
消 化 器 内 視 鏡 科		292	18.12	1.38
内 科	リ ウ マ チ	302	15.37	0.68
	糖 尿 病	101	13.61	0.73
	呼 吸 器	140	15.24	0.73
	そ の 他 内 科	145	14.09	0.70
そ の 他		58	13.69	0.78

FIM(機能自立度評価表)とはADLを評価する評価法のひとつです。FIMは、運動13項目と認知5項目の計18項目で評価します。採点基準は、介護量を7点から1点で評価します。(7点完全自立、6点修正自立、5点監視準備、4点最少介助、2点最大介助、1点全介助)

重点目標・評価と来年度への展開

2016年度は疾患別リハビリテーションの改定(廃用症候群リハビリテーション)に対する対応や2015年度からの退院前・退院後訪問指導を継続実施することで業務の見直しおよび質の向上に努めました。

2017年度は病棟専任のリハビリテーションスタッフを配置することで、さらなる連携強化と専門性の向上に努めていきたいと考えています。

学会発表実績

【全国】

学 会 名	演 題	発 表 者
第6回 日本認知症予防学会	「レビー小体型認知症(DLB)に特化したデイサービス作りに向けて ～多職種協働での取り組み～」	坂本 留美
第6回 日本ロボットリハビリテーションケア研究大会	「視床出血を発症し、強い運動失調、重度感覚障害及び高次脳 機能障害を呈した患者に対するロボットスーツHALの使用経験」	久田 勇輔

【九州】

学 会 名	演 題	発 表 者
54回 日本糖尿病学会 九州地方	「糖尿病教育入院における、ロコモ度判定テストと2ステップテスト及び、 ロコモ25の関連について」	廣田 奈央
	「糖尿病性腎症が自己効力感と運動機能に及ぼす影響」	田中亜憂美
	「2型糖尿病患者で肥満の有無が、運動療法に与える効果について」	室島 央典
九州理学療法士・作業療法士合同学会 in 鹿児島	「2型糖尿病における2ステップテストの有用性について」	川上 章子
日本医療マネジメント学会 第17回 長崎支部学術集会	「当院リハビリテーション部における感染対策への取り組み」	兼石 匠
長崎県理学療法学会学術大会	「THA後に残存した姿勢異常に対するアプローチ」	岡 亮平
	「回転性眩暈を呈した小脳出血患者へのアプローチ ～離床時間確保に難渋した一症例～」	富永 貴明
	「関節可動域の改善を認めた肩関節拘縮症例の経験」	中島 拓哉
第24回 長崎県作業療法士県学会	「自主訓練を通して上肢機能・認知機能が向上した症例」	田代 千奈

講演・学術活動

学 会 名	演 題	講 師
在宅療養サポートセンター依頼の研修会	「健康体操について」	室島 央典
在宅療養サポートセンター主催講演会	「健康体操について」	室島 央典
認知症診療医研修会	「病氣と共に過ごすために知っておきたいこと ～在宅生活をサポートするための～」	坂本 留美
AKA理学・作業療法士会 地域技術研修	「体幹・四肢関節」	馬淵 重雄
東大和地区地域サロン活動	「健康体操とデュアルタスクトレーニング」	兼石 匠
在宅療養サポートセンター主催講演会	「健康体操について」	室島 央典
在宅療養サポートセンター主催講演会	「健康体操について」	室島 央典
コンソーシアム長崎 第1回 県民フォーラム	「STを知ってみよう！」	石丸のぞみ
東大和地区地域サロン活動	「健康体操とデュアルタスクトレーニング」	兼石 匠
長崎県作業療法士会 現職者共通研修	「実践のための作業療法研究」	朝里 良太
在宅療養サポートセンター主催 桜木町公民館	「口腔ケアについて、嚥下について」	山口めぐみ
在宅療養サポートセンター主催	「健康体操について」	室島 央典
医療・介護関係者合同研修会	「認知症 ～気づきと対応～」	坂本 留美
在宅療養サポートセンター主催	「転倒予防について」	室島 央典
東大和地区 いきいきサロン活動	「白十字会 オリジナル体操」	朝里 良太
認知症ケア研修	「認知症の理解と対応方法」	坂本 留美
地域サロン活動	「健康長寿を目指して ～健康に役立つ日常生活～」	兼石 匠
介護予防講演会	「みんなではじめよう！いきいき百歳体操 ～続けて元気、いきいき百歳～」	北村 雅志
栄養課 Institute	「摂食嚥下障害について」	山口めぐみ
サロン活動	「健康体操について」	室島 央典
県北脳卒中研究会 学術講演会	「高次脳機能検査から見た認知症の鑑別」	坂本 留美
させぼ みなと会総会	「認知症ってなに？ ～もの忘れチェックと予防～」	坂本 留美
日宇ヶ丘地区出前教室	「体力測定」	兼石 匠
サロン活動 桜木団地	「健康体操」	朝里 良太
サロン活動 黒髪1組	「健康体操」	朝里 良太
認知症予防トレーナー養成講座（認知症センター主催、対象は一般高齢者）	「認知症予防レクリエーション」	坂本 留美
日本AKA医学会理学・作業療法士会 第29回地域技術研修コース	「日本AKA医学会理学・作業療法士会 第92回 地域技術研修コース」	馬淵 重雄
サロンリーダー育成講座	「認知症予防レクリエーション」	坂本 留美
在宅支援スタッフ育成研修	「実践のための作業療法研究」	兼石 匠
東大和サロン	「介護予防について」	朝里 良太
上堺木地区サロン	「脳トレと体操」	朝里 良太
在宅支援スタッフ育成研修会	「認知症の理解 ～対応方法及びレクリエーション～」	坂本 留美
ICU病棟勉強会	「アイシングについて」	馬淵ひかる
健康教室（早岐地区公民館）	「～続けて元気、気づけば100歳～ 効果的な運動の方法」	岡 亮平
佐世保地区婦人会総会	「リハビリテーション栄養」	山口めぐみ
認知症予防トレーナー養成講座	「認知症予防レクリエーション」	坂本 留美

【栄養管理部】

栄養管理部の業務は主に「栄養指導」「栄養管理」「給食管理」です。

栄養指導では糖尿病センターでの継続した栄養看護外来を中心に、外来、入院患者さんに対して病態別に栄養指導を行っています。集団栄養指導として糖尿病教室を毎週月～金曜日に開催しています。

病棟での栄養管理は入院時の栄養スクリーニングから始まり、定期的なアセスメント、多職種と協働した食形態の適正化、病態を考えた栄養量の確認、食事内容や経腸栄養剤の検討、食事個別化への工夫などです。また毎週金曜日には多職種による栄養カンファランス、回診を行っています。

給食管理については給食委託会社と協力し、イベント食としてコース料理(和・洋・中)の提供を行っています。

主な施設基準

食事療養I
 栄養サポートチーム加算

職員配置

	常勤
管理栄養士(常勤)	10人

取得認定資格

管理栄養士……………10名
 NST専門療法士……………1名
 病態栄養認定管理栄養士……………1名
 日本糖尿病療養指導士(CDE)……………7名
 NST専任・専従資格者……………6名
 摂食・嚥下コーディネーター……………5名
 食生活アドバイザー……………1名
 調理師……………1名

活動状況

■ 栄養指導、療養支援・相談、栄養介入件数

栄養看護外来 (療養支援・相談)	3,394件	
入院個別栄養指導	1,008件	
外来個別栄養指導	557件	
透析糖尿病予防指導	20件	
集団指導(糖尿病教室)	加算件数	147件
	参加延数	1,356人
栄養介入件数	785件	
栄養情報提供者	495件	

■ イベント食開催および参加患者数

開催数：8回
 [5月、7月、8月、9月(2回)、10月、11月、3月]

参加延数：184名

■ 給食内訳

一般食	112,995食
特別食	114,948食

重点目標・評価と来年度への展開

病棟担当制を導入して3年目となり、管理栄養士による入院時の栄養スクリーニング、定期アセスメントは定着してきました。2016年度は生活習慣病に加え低栄養の栄養指導、また転院、転所の際は栄養情報提供書を作成し、他施設との栄養連携に取り組みました。

2017年度も私たちの原点である“食”とは何かを問いながら、その人が望むこと、その人ができることは何かを一緒に考えていきたいと思っています。

また、糖尿病センターにおいては傾聴、自己管理の支援、合併症の進展抑制にチームの一員として貢献できるよう努めていきます。そのためには管理栄養士個々のスキルアップも重要であり、資格認定の取得、研修等などへの計画的な参加を考えています。

学会・研修会への参加実績

学会/セミナー	演 題 名	演 者
日本糖尿病学会年次学術集会	1日7回のSMBGと食事写真撮影を併用した栄養指導の検証	貴島左知子
長崎県北緩和医療学術集会	寄り添い、傾聴すること ～管理栄養士の立場から～	八木 計佑
日本糖尿病学会九州地方会	糖尿病患者の食事・運動習慣と体重、血糖コントロールの関連	貴島左知子
	主食からわかった患者の特徴	大野 彩香
	食事写真から算出した栄養士間の栄養量の差異	福田 詩文
長崎県NST研究会	リフィーディング症候群高リスク患者の一症例	松永 大輝
日本病態栄養学会	食事写真から算出した栄養量、管理栄養士による見積もりの差	貴島左知子

【感染制御部】

病院は「病原菌を持った人」と「病気になるって免疫が落ちている人」が集中する特殊な環境のため、何も対策がとられなければ感染は起こって当然という環境にあります。感染制御部はこうした危険性を予測し、「病院に関わるすべての人を医療関連感染から守る」ことをモットーに、調査監視を行い、最新の感染防止技術の導入と徹底、感染防止教育などを行っています。

2007年6月1日に感染制御部が新たな部門として設立されました。2011年11月に室長が退職され、CNIC(Certified Nurse Infection Control:感染管理認定看護師)の専従の一人体制でしたが2012年9月より事務員が兼任で配置されるようになりました。多数のICD(Infection Control Doctor:感染制御医)や薬剤師、臨床検査技師、法人内認定感染管理ナース、感染対策委員会メンバーと連携をとって、感染対策を推進しています。

主な施設基準

感染管理加算1
地域連携加算

取得認定資格

- ・感染管理認定看護師
- ・第二種滅菌技師
- ・口腔ケア認定4級
- ・整理収納アドバイザー2級
- ・環境サービス認定専門家

職員配置

	常勤
専従看護師	1人
事務および兼任スタッフ	4人

活動状況

研修会の開催(一部紹介)

実施日	実施部署・対象	研修内容	講師	参加人数
4月	1日 新入職員全員	院内感染について	奥田 聖子	65名
	6日 看護部新人	院内感染防止対策について・パート1	奥田 聖子	25名
6月	16日 全職員	針刺し事故対策について	木下 昇	326名 440名
	30日 中途採用者(院内・院外問わず)	院内感染防止対策について・パート1、2	奥田 聖子	6名
7月	8日 看護部新人	院内感染防止対策について・パート2	奥田 聖子	25名
	29日 子供探検隊参加者	子供病院探検隊-手洗い博士になろう-	奥田 聖子	30名
8月	2日 看護師	今、エビデンス以上の周術期感染対策を	草地 信也	25名
	16日 17日 18日 看護補助者	看護補助者研修	奥田 聖子	33名
	9月 19日 ドリームケア	IP・インフルエンザウイルスの感染対策について	奥田 聖子	50名
11月	17日 中途採用者(院内・院外問わず)	院内感染防止対策について・パート1、2	奥田 聖子	12名
	15日 全職員	冬に気をつけたい感染症について	坂口 麻垂子	312名 474名
	25日 すこやか介護講座	スキルアップ感染対応講座	奥田 聖子	35名

- 冬期感染予防キャンペーン
- 感染管理地域連携相互チェック4回
- 感染管理加算を取得している保険医療機関とのカンファレンス4回

- ワクチン接種の推進
(HBV・入職時の流行性四疾患の抗体価の確認)
- インフルエンザワクチン接種率96.9%

重点目標・評価と来年度への展開

2016年は院外研修や公開研修を6回開催し、全部で29回の研修を開催しました。

2017年も院内、院外研修会を充実させ医療従事者の知識と技術の向上に寄与できるように取り組みます。またHBワクチンの接種の推進、および、インフルエンザワクチンの接種率90%以上など感染が起りにくい環境の維持に努めます。



学会・研修会参加発表実績

日	付	学 会 名
2016年	4月22日	感染管理セミナーin長崎
2016年	5月28日	感染管理ベストプラクティス研修会 参加【大阪】
2016年	5月20日・21日	ICNJ 参加【大分】
2016年	6月17日	SSI研修会
2016年	9月 7日	糖尿病と感染症
2016年	11月19日	感染管理セミナーin長崎【長崎】
2016年	11月26日	FOSS研鑽会【福岡】 ICNJ地方会【福岡】
2016年	12月10日	フォローアップ研修【福岡】
2016年	12月17日	結核感染対策【佐賀】
2017年	2月24日・25日	環境感染学会 参加【神戸】
2017年	3月4日	神戸滋賀感染管理認定看護師研修会【大阪】

【医療安全管理部】

医療安全管理部は、専従医療安全管理者を配置し、病院長直轄の独立した部門として組織内に位置します。院内で発生した事例に関して、基本的には当該部署が初期対応し、その内容によっては、医療安全管理部が検証・共有・支援を行います。

主な施設基準

医療安全対策加算1

取得認定資格

医療安全管理者……………1名

職員配置

医療安全管理部	常勤専従	常勤専任・兼任		非常勤数
		人数	常勤換算	
総数	1人	19人	9.5人	
診療放射線技師		1人	0.5人	
看護師(専従医療安全管理者)	1人			
事務員		1人	0.5人	
放射線技術部専任者		1人	0.5人	
臨床検査技術部専任者		1人	0.5人	
リハビリテーション部専任者		2人	1.0人	
医療事務課専任者		2人	1.0人	
健康管理部専任者		1人	0.5人	
システム開発室専任者		1人	0.5人	
医局専任者		2人	1.0人	
看護部専任者		2人	1.0人	
臨床工学部専任者		1人	0.5人	
栄養管理部専任者		1人	0.5人	
資材課専任者		1人	0.5人	
認知症疾患医療センター専任者		1人	0.5人	
薬剤部専任者		1人	0.5人	

活動状況

- ①医療安全教育・研修
 - ・公開研修(3回)「報告書を書く」、「KYT」、「チームSTEPPS」
 - ・新人職員&中途採用者対象安全研修基礎 シリーズI～III
 - ・医療安全全体研修(前期・後期)
 - ・分散教育 看護部:「チームSTEPPS」 リハビリテーション部:「ティーチングとコーチング」(3回)
- ②安全教育教材の作成:医療安全教育動画教材の作成
- ③白十字会グループ安全管理協議会の企画・運営・実施
- ④医療安全管理Institute開催

重点目標・評価と来年度への展開

- ・ 患者さん(ご家族)への安全安心情報伝達
- ・ 対外的な医療安全活動の情報伝達
- ・ 医療安全対策加算の体制維持
- ・ 医療安全リスクコストの明確化
- ・ 医療安全管理部の体制改善
- ・ 白十字会グループ協議会における医療安全活動の推進
- ・ 職員教育の充実
- ・ 職員の安全に対する意識向上
- ・ 事例対策の評価

学会発表実績

学 会 名	発 表 演 題
日本医療マネジメント学会九州・山口連合大会	部門代表専任者の安全活動サポート
日本医療マネジメント学会第17回長崎支部学会学術総会	事例再発防止と安全教育

院外講演(講義)活動の実績

主催および会場	演題および講演内容
社会医療法人青洲会 青洲会病院	講義「医療安全の基礎知識」
医療法人医誠会 大阪4病院医療安全学習会	講義「医療安全における効果的なコミュニケーション」
総合メディカル会員セミナー(東京)	講演「医療安全総論」
社会福祉法人聖家族会 むつみの家	講演「事故防止対策」
日本臨床検査技師会医療安全管理者養成講習会	講演「看護師における医療安全管理への取り組みについて」
佐世保市医師会看護師卒後教育研修会	講演「医療安全における医療情報管理」
長崎県看護協会	リスクマネジャー研修Ⅰ リスク感性に磨く ～日々の看護業務を通して～
長崎大学シーボルト校	講義「医療安全管理」

【臨床研究管理部】(治験管理室)

治験管理室における治験事務局業務(治験審査委員会事務局を兼ねる)および治験コーディネーター(CRC)業務に基づいて治験を管理・支援する機能の他、臨床研究を管理・支援する機能を有し、治験による先端医療の提供・次世代の新薬開発への協力および臨床研究のサポートを通じて、社会医療法人として社会的責任の一端を果たすため日々活動しています。

職員配置

	職 種	常 勤	非常勤	派 遣
臨床研究管理部	薬剤師	1人		
	助 手 ^(※1)		2人	
治験管理室	C R C ^(※2)			5人

(※1)リウマチ膠原病領域と糖尿病領域の研究のデータ・マネジメントを担当

(※2)CRCは、SMO(治験実施施設支援機関)との契約に基づく派遣。(治験事務局業務担当を含む。)

取得認定資格

JASMO公認CRC^(※3).....5名

(※3)JASMO公認CRCは、日本SMO協会が優れた資質向上を目的に、認定試験に合格したCRCを臨床試験のスペシャリストとして公認するものです。

活動状況

	疾患領域	契約件数(プロトコル数)		計	契約症例数		計	実施症例数		計	
		継続	新規		継続	新規		継続	新規		
① 治験	リウマチ	継続	18	計25	継続	125	計152	継続	123	計133	
		新規	7		新規	27		新規	10		
	SLE	継続	3	計5	継続	8	計12	継続	6	計8	
		新規	2		新規	4		新規	2		
	SpA	継続	0	計3	継続	0	計3	継続	0	計0	
		新規	3		新規	3		新規	0		
	糖尿病	継続	4	計8	継続	29	計47	継続	26	計38	
		新規	4		新規	18		新規	12		
	呼吸器	継続	2	計4	継続	4	計10	継続	4	計8	
		新規	2		新規	6		新規	4		
			合 計	45		合 計	224		合 計	187	
	② 新規治験スタートアップ会議の開催件数					計16回(RA:7、SLE:2、SpA:3、DM:4)					
③ RA・DM臨床研究のデータマネジメントに関する実績					10研究分 (3,358症例)						
④ 医薬品製造販売後調査(PMS)などの新規契約件数					年間23件						
⑤ 治験審査委員会の活動状況					年間12回(毎月1回開催)、新規試験審査数年間16試験、1回あたりの継続審査試験数平均23.6試験						
⑥ 倫理委員会の活動状況					開催数計12回(通常審査6回、迅速審査6回)、審査研究数30						
⑦ 臨床研究管理部通信(院内報)の発行実績					年間12号(毎月1回)発行						

■ 臨床研究管理部の業務

1. 治験の管理および支援に係る業務
2. 臨床研究の管理および支援に係る業務
3. 医薬品製造販売後調査 (PMS) の管理および支援に係る業務
4. 治験審査委員会の運営に係る業務
5. 倫理委員会の運営に係る業務
6. 臨床研究の各種指針の教育・啓蒙に係る業務
7. その他の業務

■ 治験実施医療機関の要件 (GCP省令より)

- ※当院は、この要件を満たしています。
- ・十分な臨床観察・試験検査を行う設備・人員を有していること
 - ・緊急時に被験者に対して必要な措置を講ずることができること
 - ・治験審査委員会が設置されていること
 - ・治験を担当する医師、薬剤師、看護師、CRCなどの必要な職員が十分に確保されていること

重点目標・評価と来年度への展開

■ 重点目標・評価

今期の治験(継続+新規)の契約試験25件と契約症例180例を維持するとともに、RA領域の多施設共同研究を継続してサポートしました。倫理委員会の再編に伴う適正運用のサポートを行いました。

■ 2017年度への展開

来期の治験(継続+新規)の契約試験35件と契約症例180例を維持するとともに、RA領域の多施設共同臨床研究のサポートを継続して行います。人対象医学系研究倫理指針の改正施行に伴う手順書・書式の改定・啓蒙を行うとともに、研究倫理審査の適正な運用をサポートします。

学会・研修会への参加・開催実績

■ 学会・研修会への参加実績

日付	研修会名
2016年 5月14日	臨床研究データマネジメント・フォーラム
2016年 7月 2日	JASMO 第32回継続研修会
2016年10月29日	JASMO 第33回継続研修会
2016年11月 5日	日本病院薬剤師会 治験事務局セミナー 2016
2017年 3月 4日	JASMO 第34回継続研修会

【事務部】

◎医療事務課

「病院の顔」として、最初(受付)と最後(会計)に患者さんと接し、病院の印象を左右する部署であり、常に「おもてなしの心」を忘れずに患者さんと接するように努めています。また、診療費請求においても、迅速かつ正確な請求ができるように、日々、努めています。

2016年度は、「医療事務のプロとして」をスローガンとし、算定業務の知識向上、他職種協働と事例の共有、笑顔と笑声でコミュニケーションの3点を課題とし取り組みました。

◎診療情報管理課

さまざまな情報を一元管理し、業務の効率化を図り、診療情報を安全に管理することを重視し、医療の質の向上を図るとともに診療情報の点検ならび有効活用、提供などに努めています。

職員配置

	常勤	非常勤
医療事務課	37人	9人
診療情報管理課	4人	

取得認定資格

ホスピタルコンシェルジュ(3級).....	16名
診療情報管理士.....	8名
医療秘書技能検定(準1級).....	1名
医療秘書技能検定(2級).....	8名
医療秘書技能検定(3級).....	9名
診療報酬請求事務能力認定試験.....	6名
医療対話推進者.....	1名

医療事務課業務内容

外来 医 事 係	受 付	患者さんの状況を確認しながら、迅速かつ確かな受付を行っています。
	コールセンター	「声で笑顔を伝える」をモットーに、診療科と連携を取り予約受付を行っています。
	オペレーター	外来患者さんの診療費計算を迅速かつ正確に行っています。
	会 計	窓口での支払いや医療費相談の対応、日々の会計管理を行っています。
	書 類	書類作成システム(パピルス)を活用し、書類依頼・発行・交付業務を行い、各種公費申請の手続きを行っています。特定疾患更新時期には約700件の処理を行っています。
	未 収	請求・入金・未払金額の管理をし、未払者の対応を行います。また、入院時預り金の管理、入院予定患者さんへの高額療養費や限度額認定証などの情報提供を行っています。
入 院 医 事 係	退院前日の患者さんへ概算入院診療費のお知らせを行います。また、入院中の患者さんに対し限度額適用認定証の説明や、診療費に関してのご相談も随時行っています。DPCに係るデータの提出を厚生労働省へ行っています。	

診療情報管理課業務内容

院内外の各種調査やアンケートに対するデータ提出や原価計算を用いたクリティカルパスの検証を行っています。

課内におけるワーキンググループ	
顧客満足 の視点チーム	職員間の感謝の気持ちを伝える「和レター」を始めとし、朝礼時の接遇練習やクリスマスコンサートなどの季節ごとの行事にも力を入れ、患者サービス向上や職員間のコミュニケーションを円滑にするために活動を行っています。また、主な検査料金などを記載した「診療費料金表」を各部署に常備し、その作成・更新を行っています。診療科などの要望に応じて、随時診療費料金表を追加・訂正しています。
査定対策 チーム	レセプトのチェック漏れを防ぐ事を目的とし、査定結果を分析し、分析結果や注意事項を課内で共有する活動を行っています。
財務・病院機能 の視点チーム	正確な請求を行うために、月ごとに請求誤りの報告をし、個別指導や勉強会を行っています。
学習と成長の 視点チーム	専門知識向上を目指し、課内での有資格者による勉強会や他部署の方への研修を行っています。

重点目標・評価と来年度への展開

■ 広報誌発行と多職種協働

職員に医療制度や診療報酬点数に関する情報提供を行い、医療事務課の活動内容を広報・周知するために広報誌を発行しました。また、患者さん向けの広報も展開いたしました。2017年度は多職種協働を掲げ、さまざまなことに参画し、診療部をはじめとする医療業務のスムーズな運営ならびに環境整備に努めたいと思います。

■ 保険診療説明会(全職員対象)

当院は「臨床研修指定病院」です。臨床研修病院入院診療加算を算定するにあたり、全職員を対象に年2回以上「保険診療に関する講習」を開催することが義務付けられています。2017年度は、6月14日・11月15日に開催しました。

■ 病棟訪室・退院支援カンファレンスへの参加

患者さん・ご家族の不安解消に少しでも繋がればとの思いから新たに『ご入院された患者さんの元へ医療事務課職員が訪室し、高額療養費の案内や療養中の質問・相談などを伺うこと』に取り組んでいます。また、看護部ならびに多職種協働で開催される退院支援カンファレンスにも参加しています。

2017年度は2016年度と同様に診療部門との連携を深め、診療報酬におけるさまざまな情報提供はもちろん、事務職の専門知識を活かし、診療部支援ができる存在であり続けるように努めます。また、患者さんに対しても、役立つ情報の提供をしていきたいと思ひます。



◎医局秘書課

電話交換、医局受付、病歴管理(物的)、病院の図書室(医療情報プラザ)運営、ドクター秘書業務、糖尿病センター秘書業務、RA秘書業務、研修医秘書業務、安全管理部・感染対策室補佐業務を行っています。病院の図書室(医療情報プラザ)は、患者さんがご自分の病気の理解を深め、治療に参加していただくことをコンセプトに、患者さん向けの医学書を設置しています。

また、当部署は医師のさまざまなサポートをしています。特にドクター秘書は、医師の医療行為に付随する事務的作業のほとんどを担っており、医師の負担軽減に貢献しています。

主な施設基準

医師事務作業補助体制加算2 15対1

職員配置

	常勤	パート職員
事務職	7人	2人
事務職(医療情報プラザ)		1人
ドクター秘書	2人	33人
計	9人	36人
総数	45人	

取得認定資格

秘書技能検定(2級).....20名
 ドクターズクラーク.....17名
 医療事務管理士.....6名
 ホスピタルコンシェルジュ(3級).....2名
 秘書技能検定(準1級).....2名
 サービス接客検定(3級).....2名
 調剤事務管理士.....2名
 電話検定知識A級.....2名
 ビジネス文書検定(2級).....2名
 医療事務技能審査(2級).....1名
 診療報酬請求事務能力認定.....1名
 介護事務管理士.....1名
 メンタルヘルスマネジメントII種.....1名
 薬学検定(3級).....1名
 ピンクリボンアドバイザー(初級).....1名

活動状況

電話交換業務

2015年度着信本数(平日のみ)	53,062件
お待たせコール作動本数(5回コールにて作動)	282件

ドクター秘書業務

書類・診断書	7,956件/年
退院サマリー	3,850件/年
NCD(手術登録)	1,211件/年
症状詳記	368件/年



診療補助(電子カルテの代行入力)の様子

病院内の図書室(医療情報プラザ)

利用状況

利用者数	3,840人
貸出数(医学書)	271冊
貸出数(一般図書)	1,152冊
プラザ用医学書購入数	21冊

開館：平日 9:00~12:00 13:00~17:00
 第3土曜日 9:00~12:00

病院の図書室では、来館が困難な入院患者さんやご家族にもご利用いただけるよう、本のデリバリーサービスを行っています。また、来館者にくつろげる環境を提供するために、季節を感じられるような飾り付けなども工夫しています。



重点目標・評価と来年度への展開

2016年度は、電話対応と秘書業務に重点を置いて、各人のスキルアップに努めました。また、私たちが災害時にできることは何かを考え、ドクター秘書による紙カルテ代行記載の訓練を行いました。時代に逆行しているようですが、電子カルテが使用不可になる場合を想定した訓練です。戸惑いもありましたが、心を一つにして取り組むことができました。2017年度は電話交換業務に拡大し、災害時の問い合わせに対応するための訓練を試みたいと考えています。

◎資材課

資材課は、佐世保中央病院のみならず当法人の佐世保地区全施設において必要とする医療機器・医療材料・消耗品・印刷物などの購入を担当しています。購買担当・物品管理部署として、正確かつ迅速な物品供給業務に努めるとともに、適正なコスト管理・在庫管理にも力を入れており、業務の合理化およびコスト削減、コストパフォーマンスの向上に取り組んでいます。

当法人ではSPDシステムを導入しており、物品や業務の標準化・物流の効率化を図り、購買情報・在庫情報・消費情報の一元管理が可能となっています。SPDシステムは2003年に導入し、当時は外部委託運用なしの院内SPDで既存ベンダーパッケージを採用していました。その後、電子カルテ一体型SPDシステムの開発を模索し、2007年に自社開発の新電子カルテシステム「HOMES」と連動した独自の新SPDシステムが稼働開始しました。新SPDシステムでは、材料使用(消費)を登録することにより、補充だけでなく電子カルテへの記録、医事算定、原価計算と連動し、資材課業務に限らず各部門・部署の業務においても効率化に繋がっています。

消費(物品使用)情報の流れ



職員配置

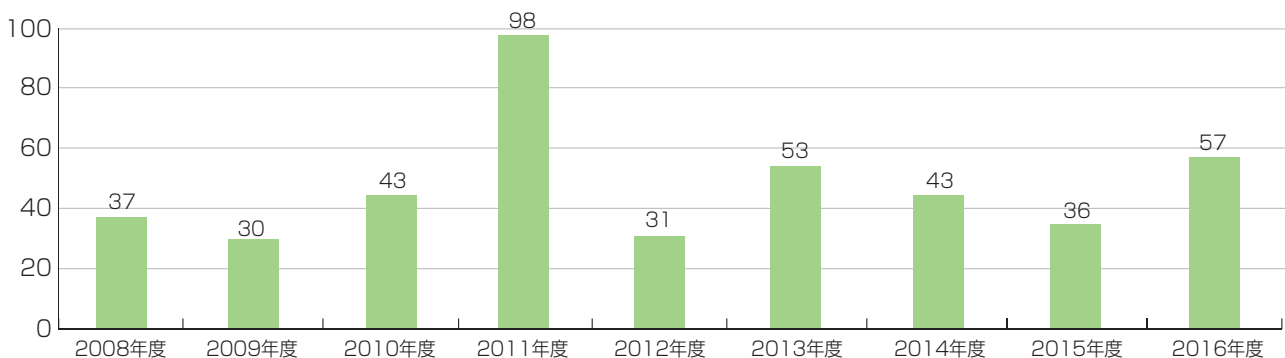
	資材管理本部	資材課	合計
常勤	1人	6人	7人

活動状況

■トータルコストダウン活動について

2002年度よりトータルコストダウン活動を継続的に推進しています。しかし、資材課職員による交渉のみではコストダウンに限界があるため、取引業者からの新商品・同等品提案や、職員からの提案を広く受け付けています。職員や協力会社を巻き込んで「良いものをより安く」調達することにより、より高いコストパフォーマンスを追求しています。

取引業者提案件数



取引業者からの提案件数およびコストダウン実績

単位：円

	取引業者 提案件数	資 材	施 設	合 計	目 標	達成率
2002年度	—	20,192,504	4,448,669	24,641,173	20,000,000	123%
2003年度	—	11,610,577	1,150,060	12,760,637	12,000,000	106%
2004年度	—	7,455,839	4,984,400	12,440,239	8,000,000	156%
2005年度	—	22,234,222	13,579,270	35,813,492	12,000,000	298%
2006年度	—	29,001,476	1,429,850	30,431,326	10,000,000	304%
2007年度	38	11,494,506	1,313,200	12,807,706	10,000,000	128%
2008年度	37	5,253,240	2,405,000	7,658,240	7,000,000	109%
2009年度	30	7,379,245	—	7,379,245	6,000,000	123%
2010年度	43	6,133,323	—	6,133,323	6,000,000	102%
2011年度	98	7,435,757	—	7,435,757	6,000,000	124%
2012年度	31	5,687,719	—	5,687,719	5,000,000	114%
2013年度	53	5,075,575	—	5,075,575	5,000,000	102%
2014年度	43	6,149,195	—	6,149,195	4,000,000	153%
2015年度	36	6,101,662	—	6,101,662	4,500,000	135%
2016年度	57	5,277,536	—	5,277,536	4,500,000	131%

重点目標・評価と来年度への展開

2016年度は、診療報酬改定に伴う医療材料などの価格変動が多く、価格が確定しないために取引業者からの提案にも対応が遅れ、トータルコストダウン活動に対して十分に取り組みなかった一年となりました。

2017年度は、引き続き目標450万円の達成を目指してコストダウンに取り組みながら、患者さんが必要とする高機能高品質の物品選定と効率的な物品供給に努め、医療の質の向上に貢献できるよう取り組んでいきます。

【地域医療連携センター】

当院は、地域医療機関との連携を深め、地域医療の充実を図るべく、入院病床や各種医療機器を開放し共同で利用することができる「開放型病院」として、さらに地域医療機関からご紹介いただいた患者さんに、より詳しい検査や専門的な治療を行う「地域医療支援病院」として運営を行っています。

地域医療機関からの診療予約サービス、開放型病床における共同指導、地域医療機関と情報を共有するメディカル・ネット99の運営などを通じて、より円滑な紹介患者さんの受け入れおよび当院から地域医療機関へ患者さんのご紹介を行うことで、地域住民が一貫した診療体制の中で安心して治療していただけるよう努力してまいります。

また、退院後も安心して生活していただけるよう医療ソーシャルワーカーが、介護保険などの各種制度のご案内や各種医療福祉施設のご紹介、経済的な相談をお受けするなどして、患者さんを支援しています。

地域連携パスの実施状況、ベッド稼働状況などの各種データ統計も重要な役割であり、さらには当日の入院依頼におけるベッドセンターの機能を有しています。

職員配置

医 師	看 護 師	医療ソーシャルワーカー	事務職員	合 計
1人(兼任)	2人	6人	6人	15人

活動状況

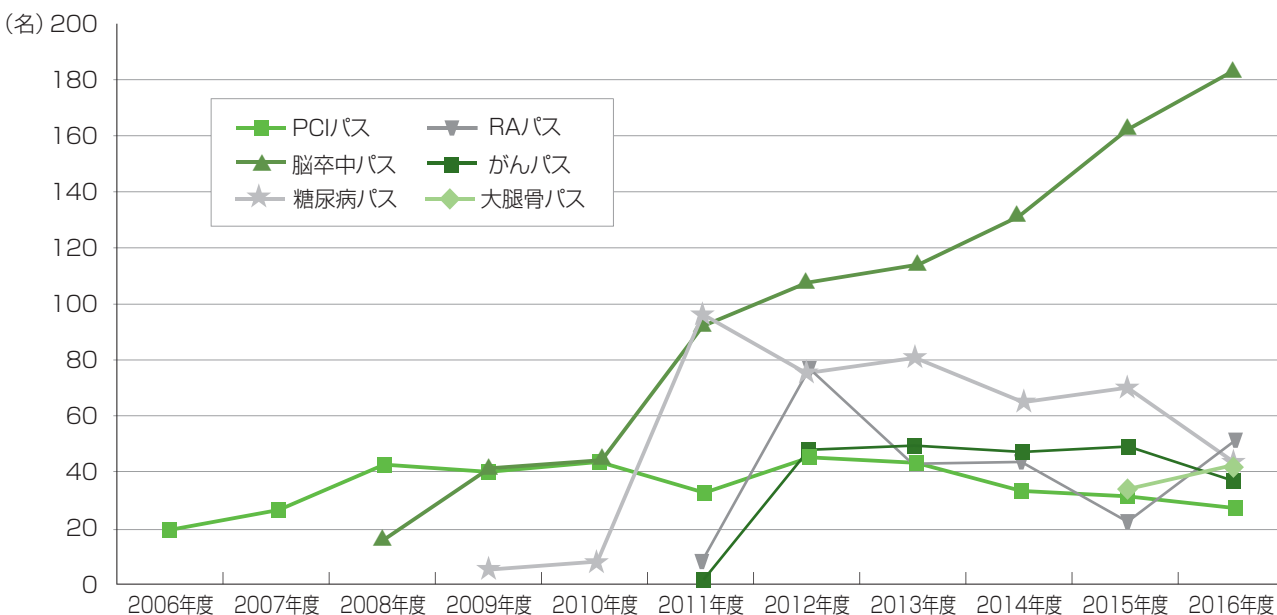
紹介率など各種の統計についてはP37病院統計をご覧ください。

重点目標・評価と来年度への展開

■地域医療機関との連携強化

顔の見える関係を構築し、さらなる連携強化を図るべく、2015年度に引き続き地域連携懇談会を開催しまし

■地域連携パス新規導入患者数推移



た。140名を超える参加があり、有意義な意見交換の場となりました。また、地域医療機関や福祉施設への訪問は456件実施し、うち24件は医師と同行訪問し意見交換や当院のアピールを行いました。今後も医局を巻き込みながら、積極的な訪問を展開していきます。

■在宅医療への貢献

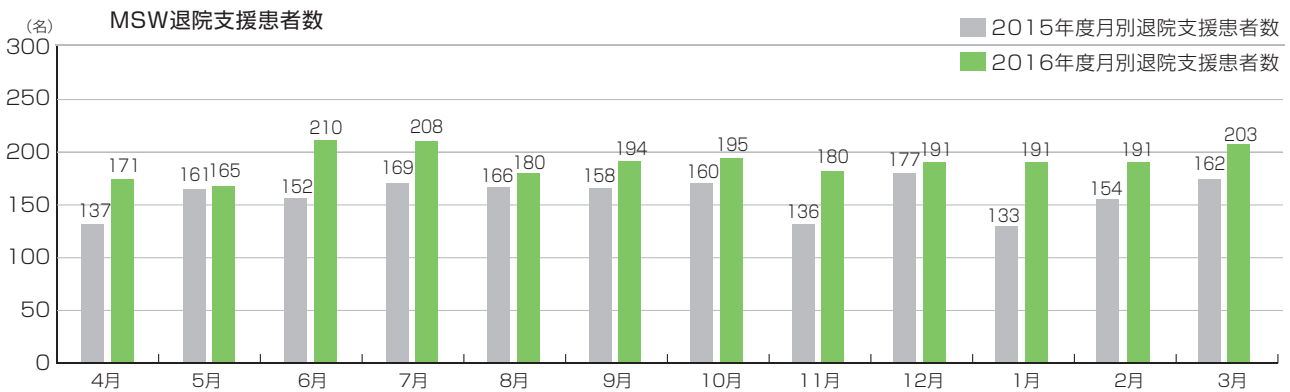
在宅療養支援診療所との関係を維持すべく、2015年に引き続き「誤嚥性肺炎から復活したアルツハイマー型認知症患者の1例」をテーマに8月25日に講演会を開催し、多くの職員が参加しました。在宅医療が注目を集める中、職員にとっては多くの学びがあったかと思えます。また、退院支援については、多職種による介入のおかげで、在宅復帰率は96%でした。今後も早期に介入し患者さんの幸せな退院のために取り組んでいきます。

	運用開始時期	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	計
PCIパス	2006年5月	20	26	43	40	44	33	45	43	33	31	27	385
脳卒中パス	2009年2月			17	42	42	92	108	114	131	162	183	891
糖尿病パス	2009年8月				5	8	96	75	81	65	70	43	443
RAパス	2011年7月						8	77	42	43	21	51	242
がんパス	2012年3月						1	49	49	47	49	37	232
大腿骨パス	2015年8月										34	42	76
合計		20	26	60	87	94	230	354	329	319	367	383	2,269

MSW活動報告

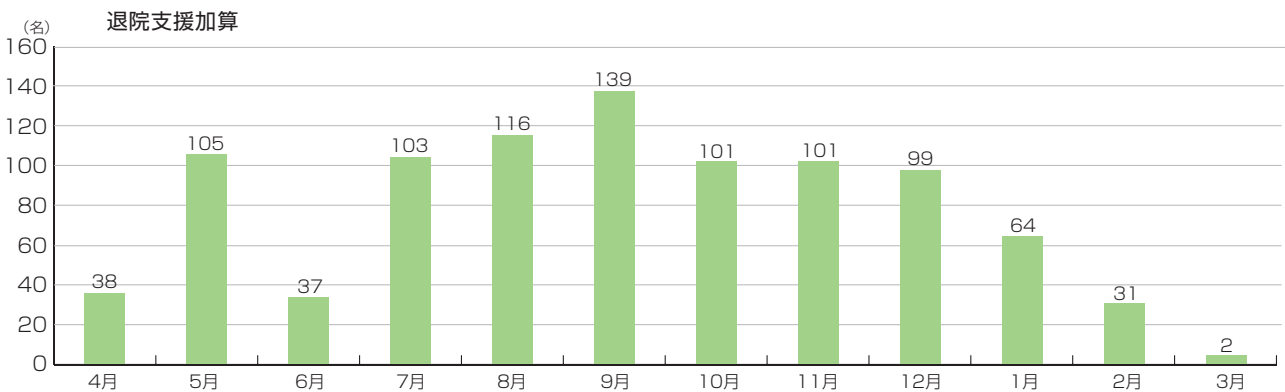
MSW退院支援介入件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
2015年度退院支援患者数	171	165	210	208	180	194	195	180	191	191	191	203	2,279
2016年度退院支援患者数	141	211	135	216	198	182	165	136	198	141	185	192	2,100



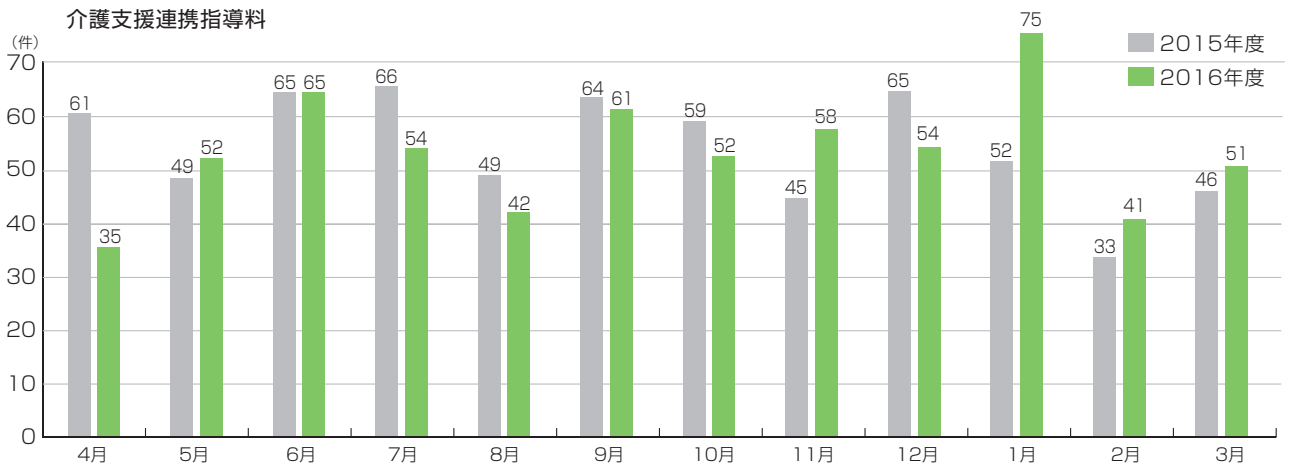
退院支援加算

2016年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
	退院支援加算		38	105	37	103	116	139	101	101	99	64	31	2



■介護支援連携指導料

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
2015年度	35	52	65	54	42	61	52	58	54	75	41	51	640
2016年度	50	59	46	51	41	58	40	59	42	43	53	43	585



患者相談実績

患者数	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
合計	1,598	1,873	1,865	2,004	2,004

(相談患者実数)

患者相談内容	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
① 経済的相談	198	121	111	135	240
② 生活の場の設定相談	56	301	440	448	649
③ 転院相談	708	709	959	957	959
④ 在宅療養の相談	584	1,144	1,416	1,319	920
⑤ 受診・受療相談	103	186	230	194	374
⑥ 疾病理解・傷害受容相談	71	65	141	158	233
⑦ 人権に関する相談	89	31	87	79	51
⑧ 就労・教育・社会復帰相談	40	25	45	62	104
⑨ 心理相談	587	632	957	1,324	1,481
⑩ 関係機関(者)との調整相談	2,251	2,893	3,231	3,688	3,905
⑪ 医療福祉制度相談	1,180	1,420	731	1,256	1,147
⑫ がん・難病疾患相談	1,346	1,422	1,321	1,456	1,436
合計	7,213	8,949	9,669	11,076	11,499

(相談延べ件数)

【健康管理部】(健康増進センター)

佐世保中央病院に併設された施設で、2002年に白十字会医療社会事業部から現在の健康増進センターへ移行しました。健康診断の専門施設として、ゆとりのある空間での快適な受診環境が整備されています。

ドック基本項目の上部消化管検査と乳がん子宮がん検診などを除いては、ワンフロアで受診可能な環境となっています。人間ドック健診をはじめ、さまざまな健診において、日本消化器病専門医、日本医学放射線学会専門医、日本内科学会認定内科医、検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師など、各専門スタッフが担当し、健診の質の確保を図っています。

また2008年12月に運営の合理性など、第三者による客観的な評価として、人間ドック学会の健診施設機能評価を認定取得し、さらに2015年4月には、認定更新が承認されました。

これからも業務内容と環境の両面での見直しを行い、利用者目線で質とサービスの向上に取り組んでいきます。

認定施設

日本人間ドック学会健診施設機能評価(Ver.3)認定施設

日本人間ドック学会専門医研修指定施設

日本人間ドック学会保健指導認定施設

健康保険組合連合会指定健診施設

全国健康保険協会管掌健診指定施設

職員配置

	常 勤	非常勤
医 師	4人	2人
保 健 師	6人	0人
看 護 師	2人	1人
そ の 他 の 職 員	5人	9人
合 計	17人	12人

*健診事業において、本院の医師および臨床検査技師、放射線技師の支援を受けている。

活動状況

健診コース別受診者数

健 診 種 類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
政 府 管 掌	一 般 健 診	20	151	267	145	152	190	448	302	314	251	230	34	2,504
	付 加 健 診	2	5	14	6	7	4	5	44	21	18	12	3	141
	肝 炎													
	婦 人 科 検 診	2	10	22	19	10	14	65	19	13	22	38		234
人 間 ド ッ ク	1 日 ド ッ ク	74	89	107	164	178	171	105	119	154	165	177	156	1,659
	2 日 ド ッ ク	3	4	24	33	54	40	21	31	27	17	23	26	303
	レディースドック				20	46	31	28	31	28	30	23		237
	肺 ド ッ ク				20	47	35	5	10	16	19	11		163
健 康 診 断	定 期 健 診	70	75	193	165	94	79	114	104	98	51	61	41	1,145
	成 人 病 健 診	50	62	41	20	22	61	17	59	46	18	19	8	423
	そ の 他	16	12	7	15	12	12	12	4	9	15	16	31	161
	職 員	428	404	589	447	14	24	229	63	130	114	11	15	2,468
佐 世 保 市 関 連	国 保 脳 ド ッ ク						10	7	14	11	5			47
	胃 癌 検 診	103	104	144	111	109	110	97	114	113	98	114	135	1,352
	肺 癌 検 診	59	30	116	101	90	94	84	105	106	88	122	131	1,126
	子 宮 癌 検 診	113	50	115	83	88	68	74	115	97	78	127	170	1,178
	乳 癌 検 診	158	70	129	98	98	115	76	111	92	97	156	209	1,409
	大 腸 癌 検 診	69	35	109	111	97	102	95	116	114	99	127	148	1,222
	前 立 腺 癌 検 診	20	12	39	42	43	35	32	28	37	38	39	28	393
	特 定 健 診			84	64	52	52	36	71	63	52	88	84	646
実 績 件 数	1,087	1,113	2,000	1,664	1,213	1,247	1,550	1,460	1,489	1,275	1,394	1,219	16,711	